

日時 2019年11月9日(土) 13:00~17:30
(開場 / 12:30)

場所 龍谷大学深草学舎 和顔館 B201
京都市伏見区深草塚本町 67

入場無料
申込不要
一般歓迎

- 内容
- 第1部 ■ 主催者挨拶
龍谷大学里山学研究センター センター長 牛尾 洋也 氏
- 基調講演
「南ドイツ山岳地域の森林業
—哲学、制度、仕組み、人と森との関係—」
Michael Lange (ミヒャエル ランゲ) 氏
(シュヴァルツヴァルトの森林官、馬牧場・景観マネジメント会社経営)
池田 憲昭 氏
(森林学ディプローム、日独森林環境コンサルタント)
- 第2部 ■ 質疑応答
「ドイツに学ぶ森林資源の活用と保全」
Commentators
① 落部 弘紀 氏 (東近江市永源寺森林組合 職員)
② 牛尾 洋也 氏 (龍谷大学法学部 教授)
コーディネーター
宮浦 富保 氏 (龍谷大学理工学部 教授)
- 閉会挨拶
龍谷大学里山学研究センター 副センター長 村澤 真保呂 氏

お問い合わせ 龍谷大学里山学研究センター 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67
主催：龍谷大学里山学研究センター <http://satoyama.kenkyu.ryukoku.ac.jp/>
後援：滋賀県、東近江市 TEL：075-645-2154

2015年度~2019年度 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 龍谷大学里山学研究センター シンポジウム 森林・林業と人々の生活 ドイツと日本の比較から

琵琶湖を中心とする循環型自然・
社会・文化環境の総合研究
—Satoyamaモデルによる地域・
環境政策の新展開—



森林・林業と人々の生活 ～ドイツと日本の比較から～

日本の森林の資源量はかつてないほど増加しているといわれています。しかしそれは、森林資源の利用が進まないために蓄積量が増加しているに過ぎません。林業の担い手不足や採算性の悪さ、輸入材との競合などの要因から森林・林業への関心が薄れ、木材生産が進まず、間伐等の管理が手遅れ状態になっています。このことは、木材としての質や生産効率の低下につながるるとともに、生物の多様性の低下や林地崩壊などの災害も危惧される事態となっています。木材の自給率は近年回復傾向にあるとはいえ、2017年現在36%にとどまっています。対照的にドイツでは、安定的な木材生産が行われており、国内の木材消費はほぼまかなわれているといわれています。

このシンポジウムでは、ドイツの森林官（ミヒャエル ランゲ氏）とドイツ在住の森林木材コンサルタント（池田憲昭氏）から、ドイツにおける林業を中心とした森林資源利用の現状や生業の場としての森林の歴史、ドイツの人々の森林および景観に対する考え方について講演して頂きます。これを受け、森林資源の利用における日本の問題点を明らかにし、資源の活用と多様性保全を目指した議論を行いたいと思います。

プログラム

- 12:30 開場
- 13:00～15:30 第1部
- ・主催者挨拶
 - ・基調講演
「南ドイツ山岳地域の森林業—哲学、制度、仕組み、人と森の関係—」
Michael Lange (ミヒャエル ランゲ) 氏
池田 憲昭 氏
- 15:30～15:40 休憩
- 15:40～17:30 第2部
- ・質疑応答
「ドイツに学ぶ森林資源の活用と保全」
 - ・閉会挨拶

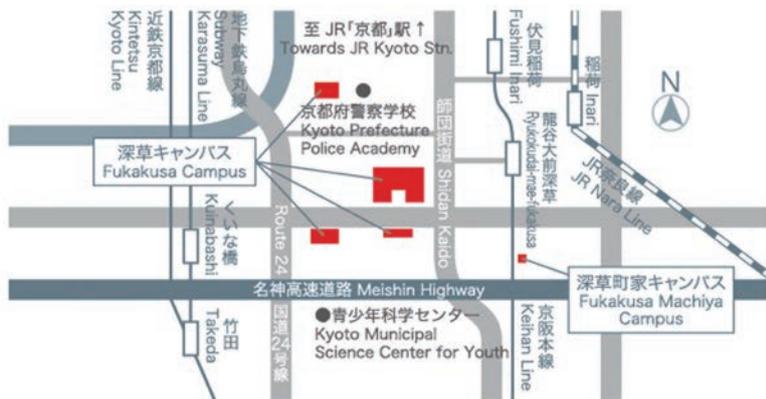
里山学研究センターとは

龍谷大学里山学研究センターは、2004年度に文部科学省オープンリサーチセンター整備事業として採択されてから、人と自然との共生をめざした「里山学」を掲げ、里山の保全再生に向けたプロジェクト研究に取り組んできました。

2015年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されたことを契機に琵琶湖の保全・再生に「satoyama モデル」を活かす政策を模索しています。

【会場アクセス】

- ・JR 奈良線「稻荷」駅下車、南西へ徒歩約8分
- ・京阪本線「龍谷大前深草」駅下車、西へ徒歩約3分
- ・京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋」駅下車、東へ徒歩約7分



お問い合わせ

龍谷大学里山学研究センター

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町 67
<https://satoyama.kenkyu.ryukoku.ac.jp/>
TEL : 075-645-2154